

上映作品

「3がつ11にちをわすれないためにセンター」より



バリアフリー上映について

せんだいメディアテークでは、だれでも気軽に映像を楽しめるよう、目や耳の不自由な方への音声解説・日本語字幕と、託児サービス付き上映会を開催しています。音声解説と日本語字幕は、ボランティアにより制作されています。

いい たて むら 飯舘村に帰る

2020 11.29 SUN

- ①10:30~12:30 / 上映+トーク(45分間、手話通訳付き)
- ②15:00~16:00 / 上映のみ ※各回30分前開場

入場無料 事前申込制

[各回定員45名、全席指定、応募多数の場合は抽選]

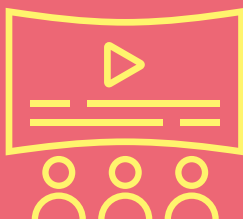


せんだいメディアテーク
7階スタジオシアター



音声解説

登場人物の動きや風景などを音声で解説したものです。



日本語字幕

セリフだけではなく、映像の中の様々な音を字幕にしたものです。

託児サービス



解説

本作は、せんだいメディアテークが運営する「3がつ11にちをわすれないためにセンター」(通称:わすれん!)から生まれた記録のひとつです。

東日本大震災による原発事故の影響で、思いもよらず避難しなければならなかった福島県飯館村の人びと。避難指示が解除され、6年以上の仮設住宅での暮らしから村に帰る選択をした多くは高齢者でした。この映像は、震災後に避難先の国見町にある仮設住宅に通っていたわすれん!参加者の島津信子さんが、そこで出会った人びとにインタビューし、かつての村のようすや帰村後の暮らし、村への想いを聞いた記録です。

●1回目の上映後にトークがあります(45分間・手話通訳付き)

制作者を迎え、バリアフリー上映での新たな気づきや、映像の読み解きといった音声解説・日本語字幕制作活動の魅力についてお話をうかがいます。



3がつ11にちを
わすれない
ためにセンター

当館が、市民、専門家、アーティストと協働し、さまざまなメディアの活用を通じて震災とその復旧・復興のプロセスを独自に記録・発信していくプラットフォームです

『飯館村に帰る』／2019年／55分 制作／島津信子 福原悠介

山形国際ドキュメンタリー映画祭2019 (ともにある Cinema with Us)、福島映像祭2020で上映



音声解説を 聞くには

バリアフリー上映の特徴を知ってもらうため、会場内のスピーカーから音声を流します。

申込方法

申込方法：電話、ファクス、メール

申込事項：① 催し名 ② 希望の回(①または②) ③ 氏名(同行者がいる場合、その氏名も)

④ 電話番号 ⑤ 返信を希望する連絡先(電話、ファクス、メール)

⑥ 目や耳の不自由な方、車いすをご利用の方、補助犬同伴の方、

赤外線音声補助装置の貸出をご希望の方はその旨をそえてください。

また、託児(生後6か月から未就学児・無料)をご希望の方は、お子様の氏名、年齢(月齢まで)もお伝えください。

申込締切：2020年11月9日必着。申込多数の場合は抽選、空きがある場合は締切後も受け付けます。

※申込でいただいた個人情報は当該事業の連絡のみに使用します。

問合せ・申込み先

せんだいメディアテーク 企画・活動支援室

〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1

電話 022-713-4483

ファクス 022-713-4482

メール office@smt.city.sendai.jp

ウェブ <https://www.smt.jp/projects/bfdesign/>

